



主幹CTで『自家発電分を含めた電力使用量』を測定します。主幹CTは主幹ブレーカーの1次側もしくは2次側に取付ます。

- 分電盤の手前で分岐している電気機器(エコキュートなど)がある場合は配線の変更が必要です。
- 創エネ機器(太陽光発電、エネファーム、エコウィル)が設置している場合、発電した電力うち『自家発電分を含めた電力使用量』が計測できるように配線を変更します。
- 主幹2次側にCTを取り付ける場合は、主幹ブレーカー2次側の銅バーを電線に変更します。変更できないときは配線を変更します。

主幹CTケーブル、分岐CTケーブルの長さは2mです。主幹ブレーカーおよび計測する分岐ブレーカーまでの距離を確認してください。※H2V Controller本体の取付は、皿木ねじ4.5×30mmを使用します。

電力線は単線1.6mmまたは2mmを使用します。将来、H2V Controller内に車両充電用ブレーカーを取り付ける場合は、単線2.6mmまたはより線5.5mm<sup>2</sup>定格電圧600V以上の絶縁電線を使用してください。

L1,N,L2の取付を間違えないよう注意してください。取付を間違えると家全体の電力使用量が計測出来ません。

分電盤内に主幹CT(L1、L2用2ヶ有り、方向有り)、分岐CT(片方の電線に取付、方向なし)を取付ます。CTとCTケーブル、CTケーブルとH2V Controller内のCTコネクタを結線します。※分岐CTケーブルはH2V Controller内の『充電回路CT入力』コネクタに結線します。

分電盤側とController側の電力線(L1,N,L2)の結線を確認してください。主幹CT(L1、L2用2ヶ、CTの取付方向、CTケーブルとのコネクタ部分の結線)と分岐CT(CTケーブルとのコネクタ部分の結線)の取付を確認してください。

H2V Controllerの初期設定を行います。(H2V Controllerの電流制限器スイッチ、契約容量スイッチの設定を行います。設定後H2V Controllerの電源を投入(主幹ブレーカーをON)し、**H2V Controller初期設定後のランプ確認**を行います。

H2V Gatewayをお客様指定の場所に設置し電源を投入(ACアダプターを電源コンセントに挿入)し、**H2V Gatewayのランプ点灯状態を確認**します。

**H2V Controllerの通信ランプを確認**します。

以下の状態の時はH2V Gatewayの設置場所を変更するか、無線中継器を利用して無線接続を行ってください。

- H2V Controllerの通信ランプが消灯している場合はH2V GatewayとH2V Controllerの無線通信ができていません。
- H2V Controllerの通信ランプが3回点滅している場合はH2V GatewayとH2V Controllerの無線通信が不安定な状態です。

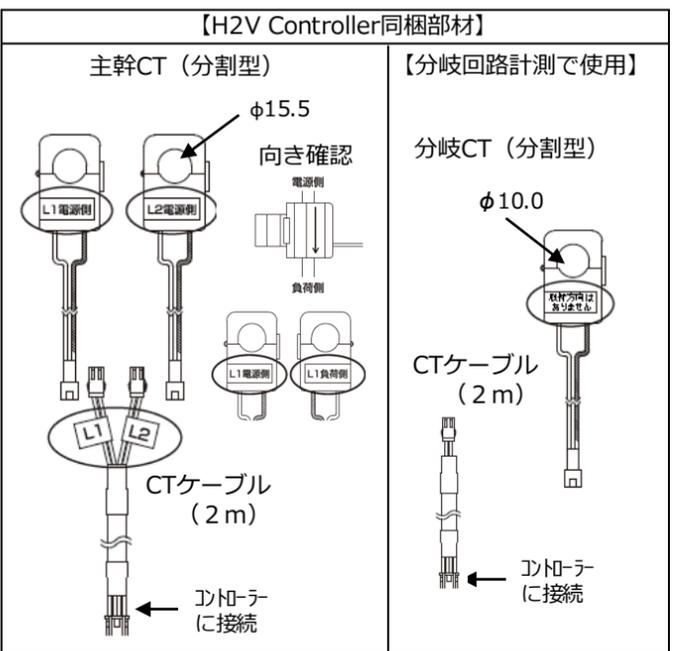
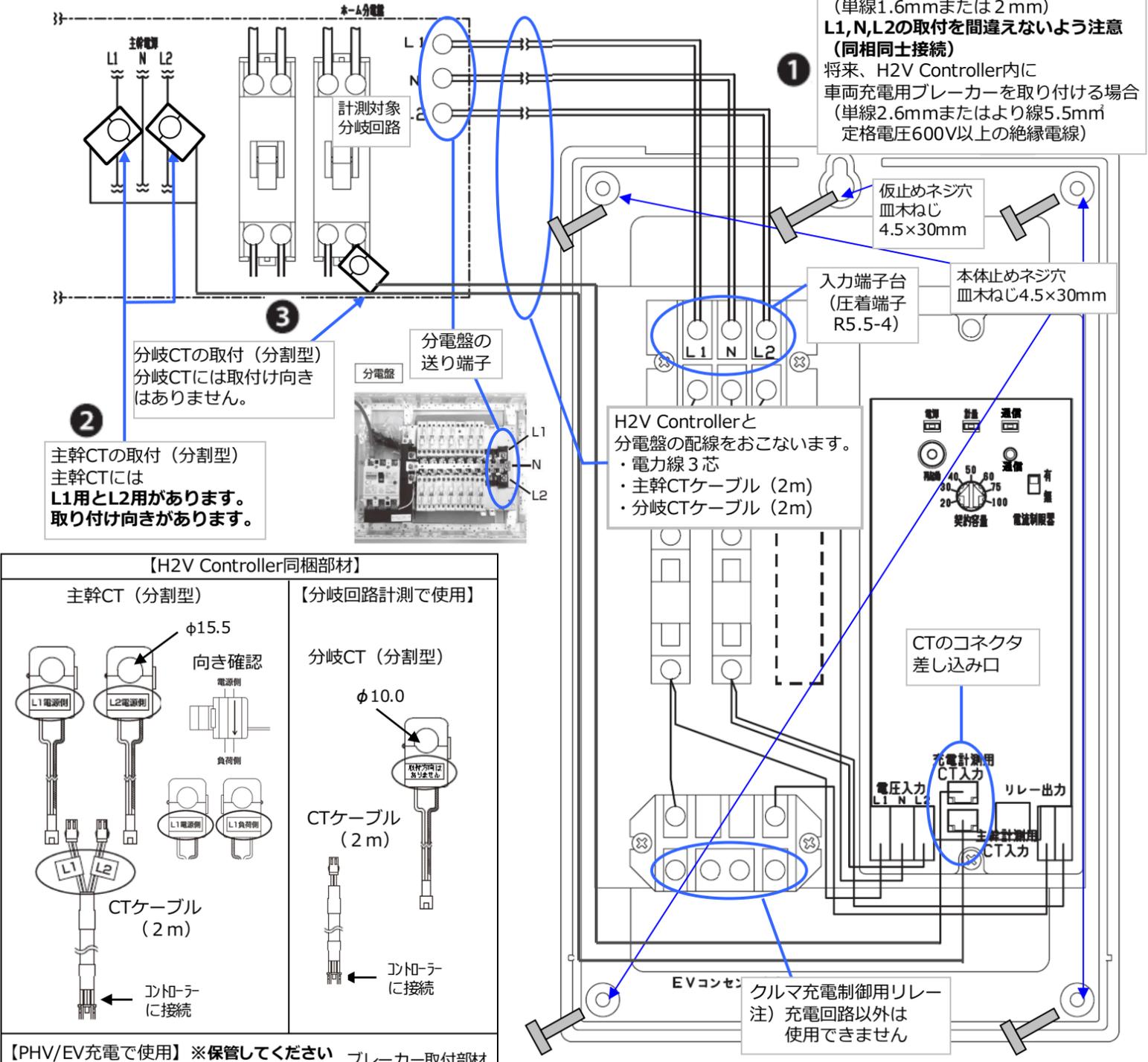
## 主幹ブレーカー2次側の銅バーを電線に変更

分電盤内の主幹ブレーカー2次側に主幹CTを取付する場合、銅バーを電線に変更します。(使用する電線は主幹の定格電流で太さが異なります)

- 銅バーを取り外します。(ネジ取り外し)
  - L1,N,L2に電線を結線します。
- 電線に変更(L1:赤、N:白、L2:黒)



## H2V Controllerの結線方法



絶縁電線の種類

主開閉器の定格電流	絶縁電線の太さ(IV線)
30A	8mm <sup>2</sup>
40A	8mm <sup>2</sup>
50A, 60A	14mm <sup>2</sup>
75A	22mm <sup>2</sup>
100A	38mm <sup>2</sup>

※電線の種類により太さは異なります。

- 【施工時にご準備いただくもの】
- H2V Controller取付ネジ(仮止め1本、本体止め4本)  
サイズ: 皿木ねじ使用時は4.5×30mm
  - 結線用の電力線(3芯)
  - H2V Controller入力端子台用の圧着端子 R5.5-4
  - 銅バーを電線に交換する場合、絶縁電線

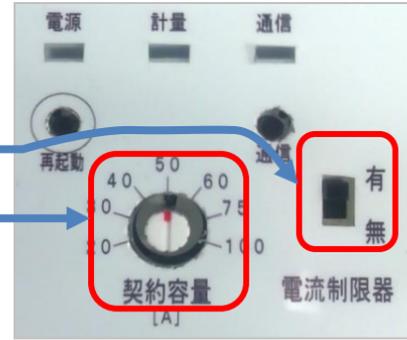


## H2V Controllerの設定

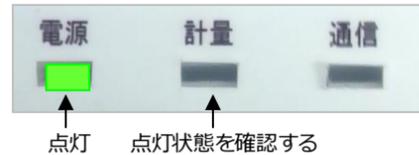
H2V Controllerの配線完了後にH2V Controllerの設定を行います。

### 【H2V Controllerの初期設定】

- H2V Controllerの電力契約情報を設定します。
  - 『電流制限器』を設定します。  
リミッター有り、リミッター無し を設定します。
  - 『契約容量』を設定します。  
リミッター有りの時：契約アンペアを設定します。  
リミッター無しの場合：契約ブレーカーがある場合は契約ブレーカーの容量  
契約ブレーカーがない場合は主幹ブレーカーの容量を設定します。



初期設定後のランプ点灯状態



H2V Controllerの初期設定後にH2V Controllerの電源投入します。  
計測対象の分岐回路(ブレーカー)をOFFの状態にして1分後のランプ状態を確認します。

電源ランプと計量ランプの状態を確認後、計測対象の分岐回路をONにして、再度ランプ状態を確認します。

### ・ランプ状態

「電源ランプ」緑ランプが点灯することを確認します。  
「計量ランプ」青ランプ連続点滅していないことを確認します。  
連続点滅している場合は、『H2V Controller初期設定後ランプ確認』で配線を確認してください。

(注意) H2V Controllerの電源のOFF/ONや再起動は行わないでください。(1分ごとに設定内容確認し、自動反映します)

ランプ状態を確認して右に記載している通信設定作業にお進みください。

### H2V Controller初期設定後ランプ確認

分岐回路	ランプ状態	判断	確認事項
分岐回路 ブレーカー OFF	電源(緑) 点灯 計量(青) 消灯	正常	
	電源(緑) 点灯 計量(青) 連続点滅	正常	太陽光発電システムで「売電中」のときは正常です。計量ランプ(青)点滅します。
	電源(緑) 点灯 計量(青) 連続点滅	異常	主幹CT(L1, L2用)の確認してください。 ・CTの取付相(L1, L2)が逆になっていないか ・CTの取付向け(矢印)が逆になっていないか ・CTのL1, L2とCTケーブルのL1, L2の接続に間違いはないか 分電盤とH2V Controllerの配線において、L1・N・L2相の配線に間違いはないか 確認してください。 ・分電盤とController電源端子台のL1・N・L2相同士の結線を確認
分岐回路 ブレーカー ON	電源(緑) 連続点滅 計量(青) 消灯 または 連続点滅	異常	分電盤とH2V Controller間の配線において、NにL1またはL2が接続されていないか ・分電盤とController電源端子台のL1・N・L2相同士の結線を確認 例) N相にL1相が接続されている場合 L1-Nが逆接続となりL1は売電として計測、L2は消費電力として計測 ① L2>L1(買電として判定) → 計量ランプ(青)は消灯 ② L2<L1(売電扱いとして判定) → 計量ランプ(青)は連続点滅
	電源(緑) 点灯 計量(青) 消灯	正常	測定している分岐回路に接続している機器が未使用です。 補) 分岐回路に接続している機器の消費電力が50w未満のときは、計量ランプ(青)が消灯します。
	電源(緑) 点灯 計量(青) 点灯	異常	測定している分岐回路に接続している機器が50w以上の電力を消費しています。 分岐回路に接続している機器をご利用中の場合は、ご利用を中断して計量(青)ランプが消灯することを確認してください。
分岐回路 ブレーカー ON	電源(緑) 点灯 計量(青) 連続点滅	正常	太陽光発電システムで「売電中」のときは正常です。計量ランプ(青)点滅します。
	電源(緑) 点灯 計量(青) 連続点滅	異常	配線を確認してください。

### H2V ControllerとH2V Gatewayの通信設定時ランプ確認

通信(橙)ランプ	状態	H2V Controllerの状態とランプ点灯内容
消灯	異常	H2V Gatewayと未接続 H2V GatewayをH2V Controllerの近くに移動して電源投入して点灯する場合は、H2V Gatewayの設置場所を変更して通信確認を行うか、無線中継器を使用してH2V GatewayとH2V Controllerの接続してください。
点灯	正常	H2V Gatewayと接続中
2回点滅		H2V Gatewayと通信設定中
3回点滅	不安定	H2V Gatewayと接続しているが電波強度が弱く無線通信が不安定な状況 H2V GatewayをH2V Controllerの近くに移動して電源投入して点灯する場合は、H2V Gatewayの設置場所を変更して通信確認を行うか、無線中継器を使用してH2V GatewayとH2V Controllerの接続してください。
連続点滅	異常	H2V Gatewayと接続エラーの状態 H2V GatewayをH2V Controllerの近くに移動して再度、H2V Gatewayと通信設定を行ってください。

## H2V Gatewayの設置後の通信確認

### 【H2V Gatewayの初期動作確認】

H2V機器間の通信確認を行います。  
H2V Gatewayをお客様指定の場所に設置し電源を入れます。

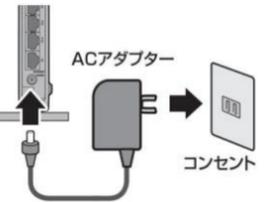
- H2V Gatewayを箱から取り出し、縦置きの場合はスタンドを取付けます。
- H2V GatewayのROUTERスイッチが「AUTO」になっていることを確認し電源を入れます。  
(ACアダプタをコンセントに差す)
- H2V Gatewayが立ち上がるまで2分待ち、ランプが正しく点灯していることを確認します。  
H2V Gateway(前面ランプ部)表示が不正な場合はH2V Gatewayが故障しています。
- H2V ControllerとH2V Gatewayの通信状態を確認します。※H2V Managerは出荷時に通信設定済

H2V Gateway(背面上部)



「AUTO」になっていない場合は、つまみをAUTOに設定してください。

H2V Gateway(背面下部)

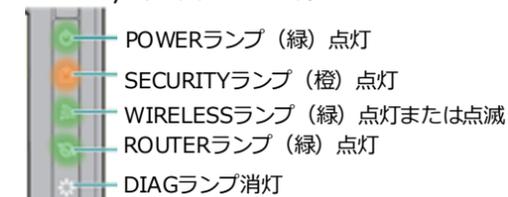


→H2V Controllerの通信ランプ(橙)が点灯しているとき、無線通信ができています。

### 通信確認は完了です。

H2V Gateway(前面ランプ部)

正常な点灯状態



H2V Controller(ランプ部)



→H2V Controllerの通信ランプ(橙)が点灯していない(消灯、2回点滅、3回点滅している)とき

- H2V Controllerの近くでH2V Gatewayの電源を入れ、H2V Controllerの通信ランプ(橙)を確認します。  
(機器の故障もしくはH2V Controller周りの電波障害を確認します)

→H2V Controllerの通信ランプ(橙)が点灯しているとき  
H2V機器は正しく動作しています。

**お客様ご指定のH2V Gateway設置場所を変更するか、無線中継器を利用して無線接続を行ってください。**  
設置場所を変更したときはH2V Gatewayの電源を入れ、H2V Controllerの通信ランプ(橙)を確認してください。

→H2V Controllerの通信ランプ(橙)が点灯していない(消灯、2回点滅、3回点滅している)とき

- H2V ControllerとH2V Gatewayの通信設定を行ってください。

→通信設定後 H2V Controllerの通信ランプ(橙)が点灯しているとき  
H2V機器は正しく動作しています。

**お客様ご指定のH2V Gateway設置場所を変更するか、無線中継器を利用して無線接続を行ってください。**  
設置場所を変更したときはH2V Gatewayの電源を入れ、H2V Controllerの通信ランプ(橙)を確認してください。

→通信設定後H2V Controllerの通信ランプ(橙)が点灯しないとき  
機器の故障かH2V Controllerの近くで電波障害が発生しています。

### H2V ControllerとH2V Gatewayの通信設定

通信ランプが点灯しない場合、H2V GatewayとH2V Controllerの通信設定(WPS接続)を実施します。

- H2V Gatewayの『AOSSボタン』を「SECURITYランプ」が2回点滅するまで長押しします。
- AOSSボタン押下後、100秒以内にH2V Controllerの『通信ボタン』を「通信ランプ」が点滅するまで長押しします。
- H2V Controllerの「通信ランプ」が点灯に変わることを確認します。  
※「通信ランプ」が点灯するまで約3分~5分程度かかります。



### 【H2V Controllerの通信ランプ状態】

- 通信ランプが消灯している場合はH2V GatewayとH2V Controllerの無線通信ができていません。
- 通信ランプが3回点滅している場合はH2V GatewayとH2V Controllerの無線通信が不安定な状態です。